

鹿本高校SSH通信 Vol. 9

～大学入試のいま～



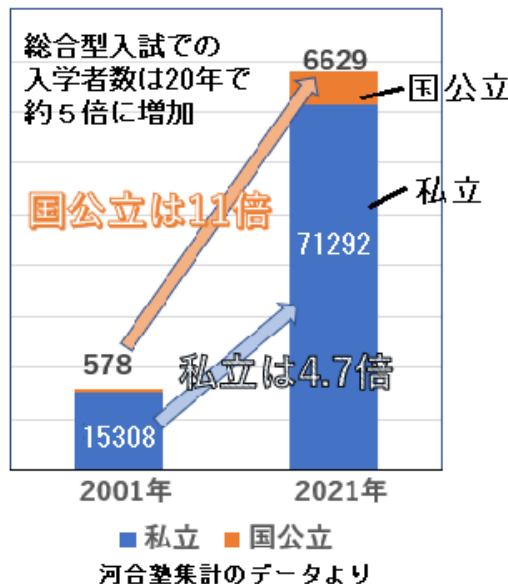
【総合型選抜の拡大】

大学入試といえば「一発勝負のペーパーテスト」のイメージを持たれる方も多いと思います。しかし近年、入試の形態も随分様変わりしました。特に拡大しているのが総合型選抜（旧A0入試）です。2022年7月11日発行のAERAでは「『総合型』を制す者が大学入試を制す」という特集記事が組まれました。その内容を紹介します。

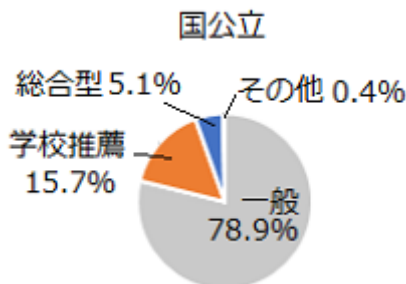
文部科学省によると、2021年度の総合型選抜での入学者数は私立大学では7万1292人、国公立大学は6829人で、**20年前と比べると私立は4.7倍、国公立は11.5倍に増えています**。私立大学は合格者の約6割、国公立大学は約2割が総合型選抜で入学しているのです。

着目すべきは東京大学や京都大学をはじめ、早稲田大学、法政大学、立命館大学といった入学希望者が殺到する難関大学も積極的に総合型選抜を取り入れていることです。東北大学の滝沢博胤副学長は次のように話しています。

「大学入学をゴールと捉える学生と、学びのスタートと考える学生では卒業時に大きな差が出ます。総合型選抜の大きな強みはここにあります。」



入試の過程で自己分析が求められる総合型選抜を経て入学した学生は、目的意識が高く、入学後もよく勉強する「伸びしろのある学生」である可能性が高いということでしょう。実際、東北大における総合型選抜合格者の入学後の成績（4年間のGPA平均）は、一般選抜前期の入学者を文系・理系学部ともに上回っており、「卒業後の進路」などの満足度も高いそうです。



文部科学省の「2021年度国公立大学入学者選抜実施状況」から

早稲田大学の新思考入試（地域連携型）には22年度は6学部で計273人が出願し、10人が合格。志願者が殺到した理由は、論理的思考力を重視した入試で、入学後に「地域貢献」をテーマとした特別プログラムを受講できるためと見られています。（2022年7.11 AERA）

それでは総合型選抜とはどのような入試でしょうか？ 旧A0入試との違いは何でしょうか？

◆総合型選抜とは？

総合型選抜では、「その大学でこんなことを学びたい」という意欲や入学後の目標が重視されます。そのため、総合型選抜では意欲や熱意を大学に強くアピールする必要があります。

◆旧A0入試との違い

旧A0方式では書類審査や面接のみという大学も多かったのですが、文部科学省の「多面的・総合的に評価・判定する」という方針から、**選抜方法も多様化**しています。小論文やプレゼンテーション、資格・検定試験の成績、大学入学共通テスト（以下、共通テスト）を課すなど、大学によって様々です。（Benesse・マナジョン）

つまり、「何のために大学に行くのか・そこで何を学びたいのか」という目標がしっかりしている必要があります。そのために必要になるのが「好奇心や探究心」といった「**学びのタネ**」と「**研究発表**」などの「**活動実績**」です。これらは**高校三年間の探究活動をはじめとする様々な経験**によって培われていきます。